

第1回 ようこそ考古学

地獄・極楽・中世人

—やぐらから見る中世の葬送—

(財) かながわ考古学財団 吉田智哉



2008. 5. 9(金) かながわ県民センター 402 会議室

地獄・極楽・中世人

～やぐらから見る中世の葬送～

本日の目次（本文）

- 1、 はじめに
- 2、 やぐらの分布する地域と場所
- 3、 やぐらの構造と形態
- 4、 やぐらの起源
- 5、 やぐらから出土するもの
- 6、 やぐらの年代
- 7、 やぐらから見る中世人の死への思い
- 8、 おわりに

1、はじめに

神奈川県内、特に鎌倉市を中心とした地域の山中を歩いていると、岩肌を四角く掘り込んだ洞窟に出会うことがあります。これは「やぐら」と呼ばれる中世（鎌倉時代～室町時代）に作られたお墓であると考えられています。

「やぐら」という名称は、鎌倉周辺における呼称で、他に石窟や岩窟とも呼ばれています。この呼び名がいつ頃からあったのか、定かではありませんが、近世（江戸時代）の文献には「窟」と書かれているものがあり（『新編鎌倉志』貞享二年（1685））、少なくとも江戸期頃まではさかのぼるだろうといわれています。では、「やぐら」が造られた中世段階での一般的な呼称はどうかというところよくわかっていないというのが現状です。

本日は、「やぐら」の基本的な構造と共に、どのように「やぐら」が生まれ、どういったところで見ついているのか、そこに残された中世の痕跡をもとに当時の埋葬・信仰の姿にせまってみたいと思います。

2、やぐらの分布する地域と場所

・地域

●神奈川県（横浜市～三浦半島周辺、特に鎌倉市周辺に多く見られる）

→鎌倉周辺では「谷戸」の斜面を掘り込み、いたる所に「やぐら」がみられるが、特に山ノ内（北鎌倉）、極楽寺、二階堂、六浦などの周縁部に多く作られる。

→鎌倉市周辺だけで 3000 基以上あったといわれている。

●宮城県（仙台湾周辺）、石川県（能登半島）、富山県、千葉県（房総半島、約 500 基）、大分県、宮崎県、鹿児島県などにも分布。

→全国的な視点で見直しが必要

・場所

●主に「谷戸」の山頂部、中腹部、崖裾。また、低地部にも存在。

3、やぐらの構造と形態

・全体構造

●前庭→羨道→玄室（床面、天井部、右側壁、左側壁）

前庭や羨道がなく玄室のみで構成される「やぐら」もある。

・内部施設

●床面→ピット（柱穴、納骨穴など）、土坑、溝（排水溝など）、檀、切石の基壇、仏像配置

●壁面→龕、ピット（柱穴など）、駒繋ぎ、石塔などの彫刻、漆喰等の装飾

●天井→天蓋や垂木を表現、扉（門）や屋根等の柱穴

・形態

- 断面は基本的に四角形を主体としながらも大きさはばらつきがある（幅1m未満～5、6m程のものまで多種にわたる）。
- 天井部を山形に成形するものと四角形にするものがある。
- 玄室のみの構造や前庭・羨道の付加によってさらに形態分類が可能

4、やぐらの起源

- 1、横穴墓起源説→横穴墓（古墳時代）を中世になって墓地として再利用。
 - 2、墳墓堂転換説→上級武士によって作られた墳墓堂（埋葬地に木造の堂を建てる）が崖面を掘り込み作られたとする。
 - 3、仁治禁令契機説→仁治三年（1242）に大友氏の所領（豊後、現在の大分県）で、「府中に墓所を作らない」という法令が出されている。これがもともと幕府法としてあったとし、平地に墓所を作ることができなくなり、崖裾に墓所を構えたとする。
 - 4、南宋文化移入説→中国の石窟文化が宋との貿易の中で流入し、定着したもの。
- 1～3は「やぐら」が鎌倉周辺にいた武士の墓であるという国内情勢を前提とし、4は国外である宋から移入されたものとしている。

5、やぐらから出土するもの

●信仰に関わるもの

→石塔（五輪塔、宝篋印塔、板碑など）、経石、仏像（阿弥陀如来、弥勒菩薩、地藏菩薩）、仏花瓶（瀬戸）など

●生活に関わるもの

→かわらけ、壺・甕・碗（常滑、瀬戸、中国製品）、火鉢・香炉（瓦質）、銭（銅銭）など

●人骨や動物骨など

6、やぐらの性格と年代

●性格

・基本的には墓と考えられる（人骨や葬られた者と考えられる名が刻まれた石塔の出土から）

→誰の？、人骨の出土していないやぐらは？

- ・「やぐら」の規模の違い、群集する「やぐら」としない「やぐら」
- 性格の違いをあらわす？
- ・埋葬手法の変化
- 壺・甕内への人骨納入から人骨を「やぐら」内に直接安置（放置）
- 「やぐら」へ葬られた階層の変化？

- ・やぐらの転用
- 墓所から倉庫、井戸、物置、防空壕などへ時代と共に変化

●年代

- ・「やぐら」が造り始められた時期は遺物から 13 世紀後半頃（鎌倉時代後半）と考えられている。→朝比奈峠上やぐら群の弘安（1278～1288）銘板碑など
- ・「やぐら」から多く出土する遺物の年代は 14 世紀前半から 15 世紀中頃

7、やぐらから見る中世人の死への思い

- 「やぐら」にみられる仏像彫刻→極楽浄土への崇敬？
- 十王像の彫刻（十王信仰）→冥府の表現？

8、おわりに

今回紹介した「やぐら」は神奈川県に存在する「やぐら」のごく一部に過ぎず、また、発掘調査によって明らかになったものもわずかであり、これまでその成立については多くの議論がなされてきましたが、まだまだ全体の解明には至っていません。しかしながら、中世という私たちの時代をはるかに遡る時代の構築物として実際に現地に残っている非常に貴重な遺構であることは確かです。今後は蓄積された資料やこれから増加する資料と合わせて検討されていくことが望まれると共に、多くの方に実際に「やぐら」を見ていただき、中世という時代を感じていただければと思っています。

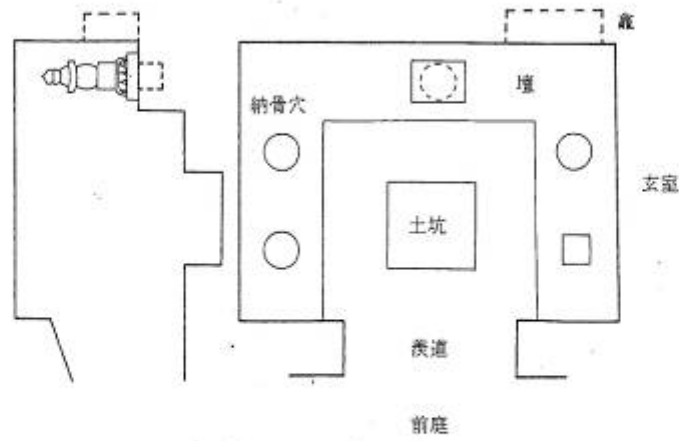
参考文献

- 赤星直忠 1959 『鎌倉市史』考古編 吉川弘文館
- 赤星直忠 1980 『中世考古学の研究』有隣堂
- 内田浩史・村野真作・永井正憲 2007 『鎌倉人の地獄と極楽』展示図録 鎌倉国宝館
- 大三輪龍彦 1977 『鎌倉のやぐら—もののふの浄土』鎌倉春秋社
- 大三輪龍彦編 1983 『中世鎌倉の発掘』
- かながわ考古学財団 2004 『公開セミナー中世鎌倉の「やぐら」』発表要旨
- 田代郁夫 1993 「鎌倉のやぐら」『中世の社会と墳墓』名著出版

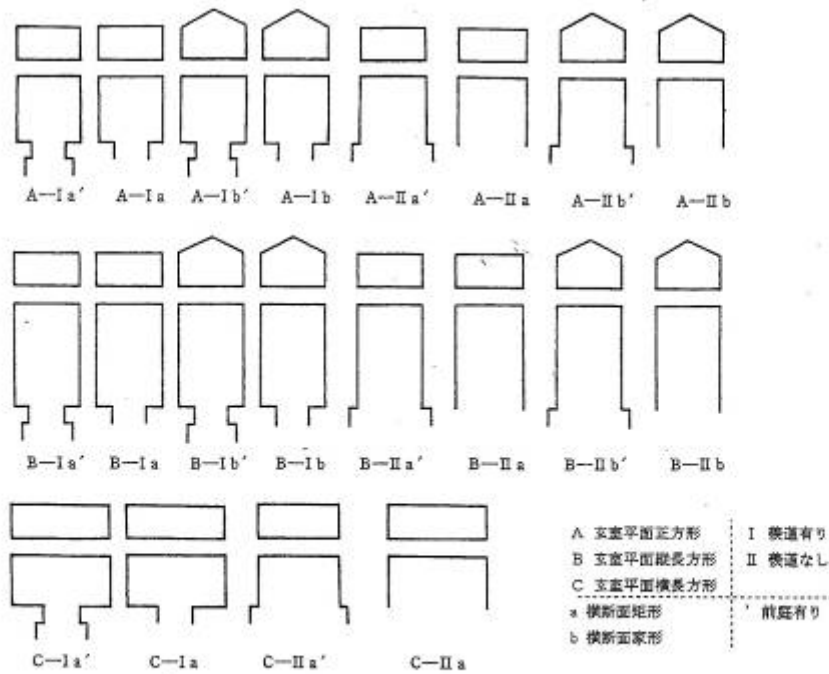
関・連・年・表

古代	平安時代	1180	頼朝挙兵、鎌倉に入る（大倉幕府）→中世都市鎌倉の発展
		1185・92	守護・地頭の設置（85）・頼朝、征夷大將軍（92）
中	鎌倉時代	1199	頼朝没→法華（墳墓）堂で政子が榮西を招いて一周忌
		1200	政子、榮西を招いて寿福寺創建 →禅宗文化の到来
		1221	承久の変
		1225	泰時宇都宮辻子に幕府を移設
		1242	仁治の禁令
		1248	最古の在銘宝篋印塔（伝鎌倉某やぐら出土）
		1252	忍性関東下向 →律宗文化の到来
		1253	建長寺開創（時頼開基・蘭溪開山） →禅宗文化の発展
		1262	西大寺叡尊関東下向
		1269	称名寺開創（実時開基・睿海開山） →律宗文化の発展
		1274・81	文永（74）・弘安（81）の役（元寇） ※弘安銘板碑
		1282	円覚寺開創（時宗開基・無学開山）
		1296	大倉薬師堂を覚園寺に改名（貞時開基・知海開山）
		1333	鎌倉幕府滅亡 高時、東勝寺で自害
世	建武新政	1334	鎌倉將軍府の開設
	南北朝	1336	南北朝の分裂
	時代	1338	尊氏、征夷大將軍
		1349	鎌倉府（鎌倉公方）が置かれる
		1392	南北朝の合体
	室町時代	1416	上杉禪秀の乱（鎌倉足利公方と関東管領上杉氏の対立）
		1438	永享の乱（室町幕府と鎌倉府の対立）
		1455	享徳の乱（公方成氏、下総古河に逃れる）→ 鎌倉の衰退
	戦国時代	1467	応仁の乱の始まり
		1482	最新の在銘五輪塔（伝覚園寺前やぐら）
		1516	北条早雲、相模全域を制圧
		1573	信長、將軍義昭を追放
近世	安土桃山時代	1590	秀吉天下統一（小田原北条氏滅亡） 家康関八州の大部分を与えられる
	江戸時代	1600	家康関ヶ原の戦いで勝利
		1603	家康、征夷大將軍
		1637	島原の乱
		1671	宗門改の制度化（檀家制度の確立） →鎌倉社寺の復興

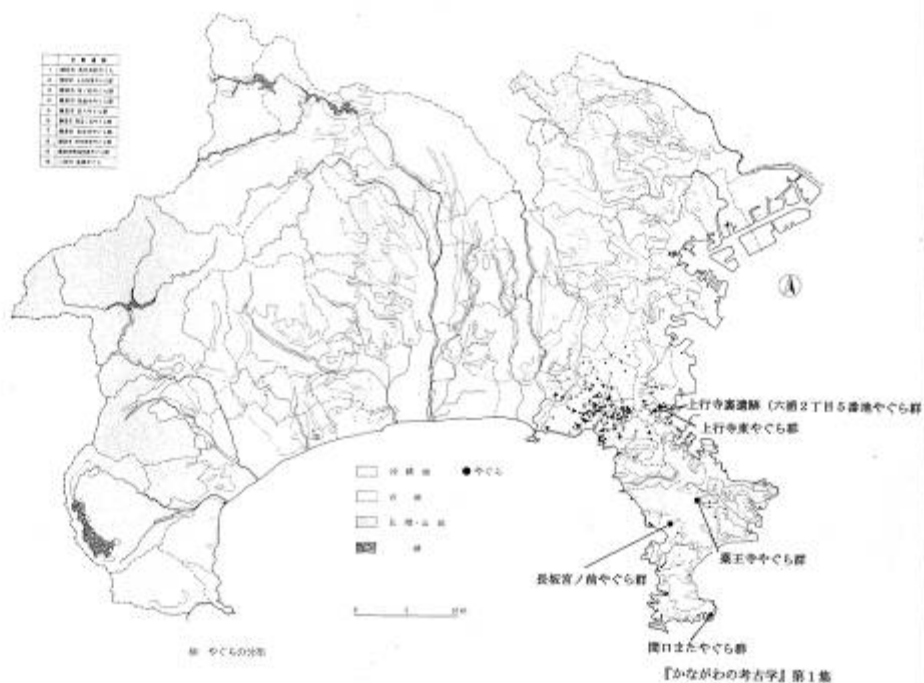
※紀年銘資料の内、弘安（1278～1288）の年号を示す板碑が朝比奈峠上やぐら群で発見



やぐらの構造 (かながわ考古学財団 2004)

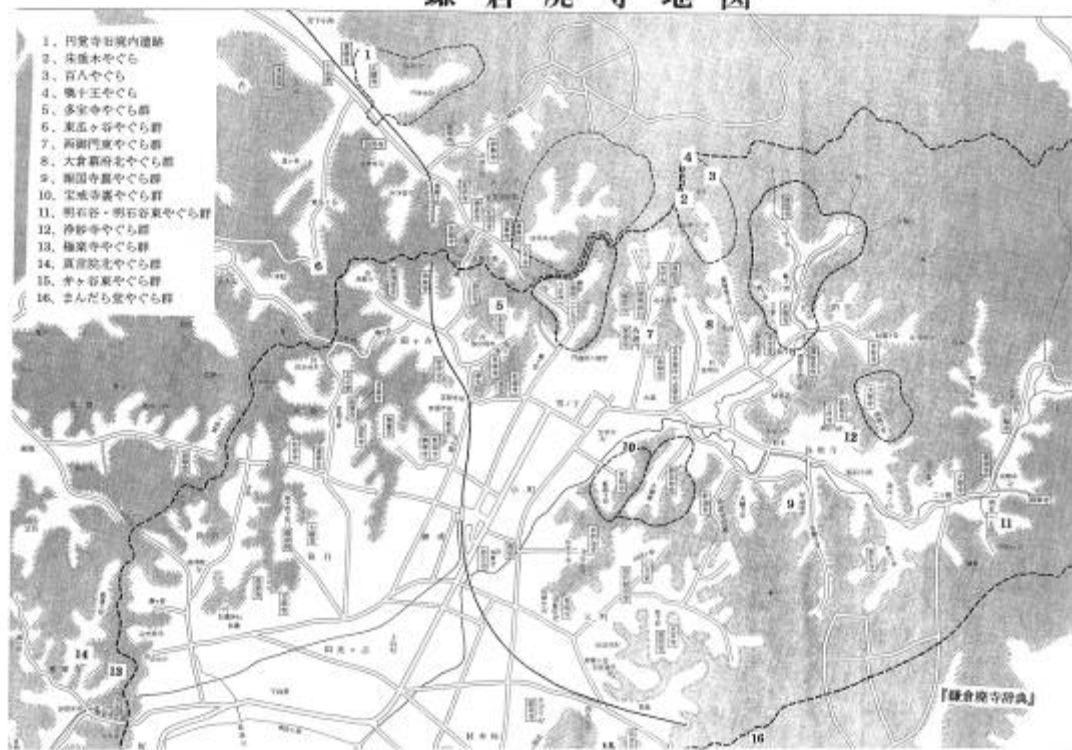


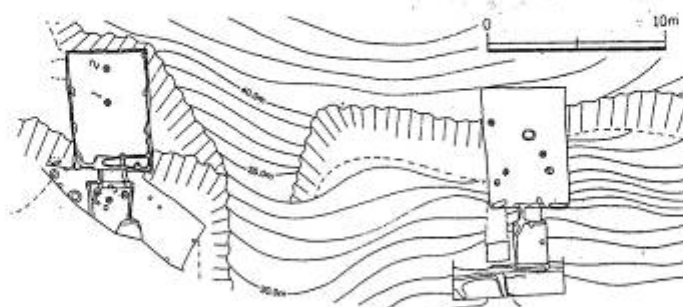
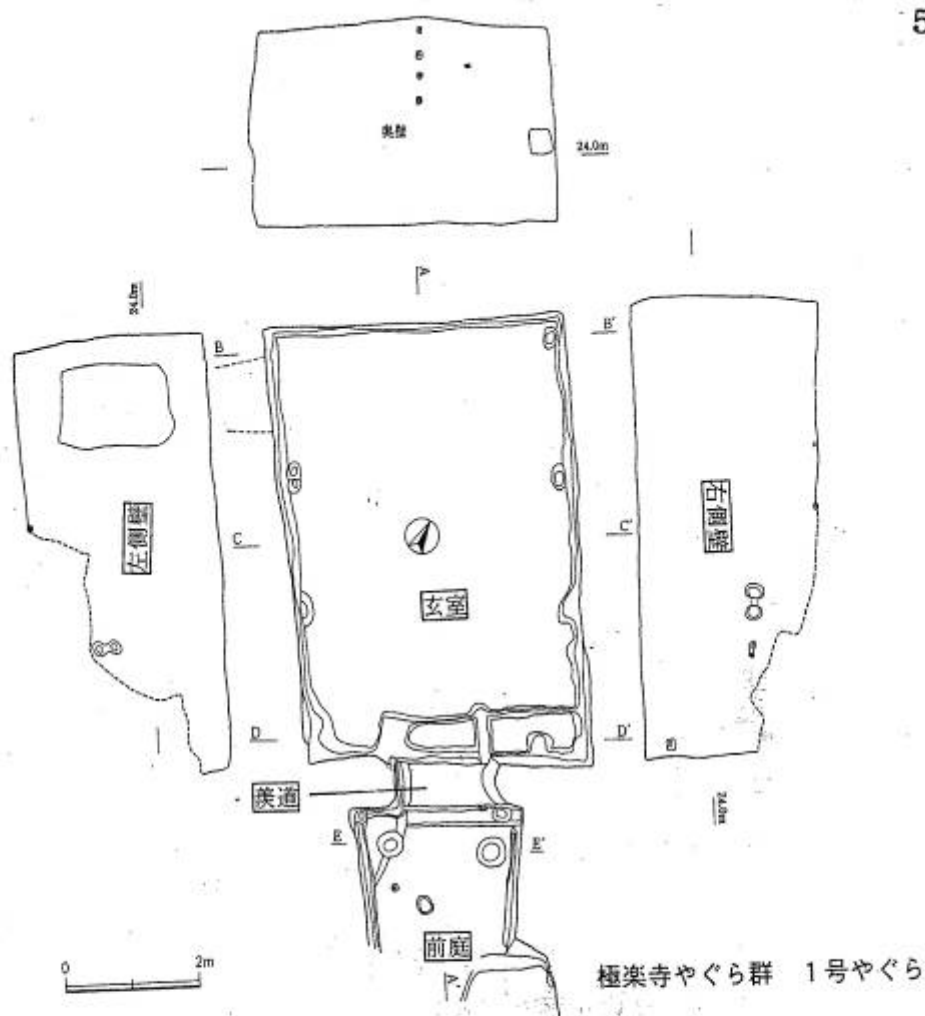
やぐらの形態分類 (安生 2003)

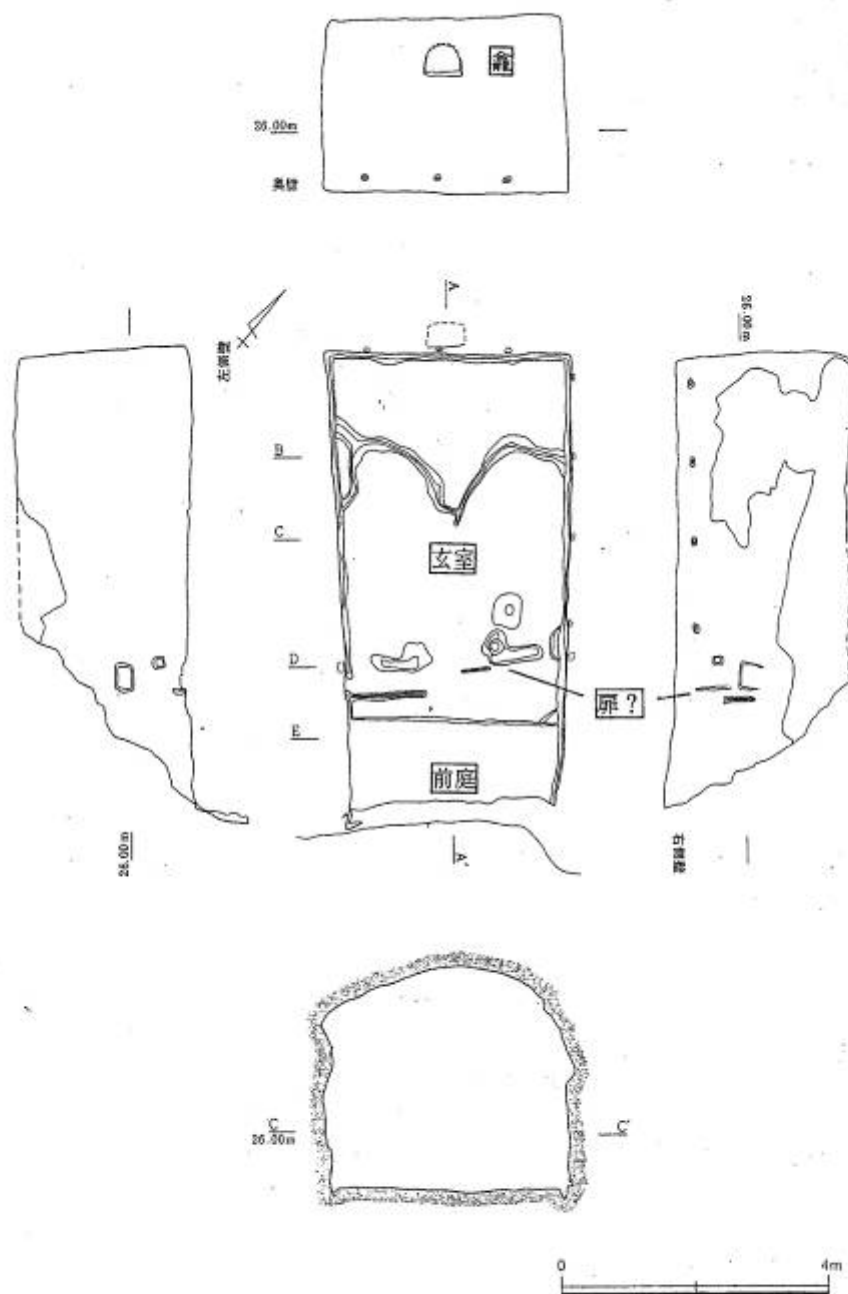


『かながわの考古学』第1集

鎌倉 廃寺 地図



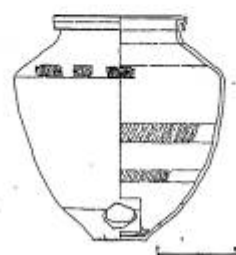
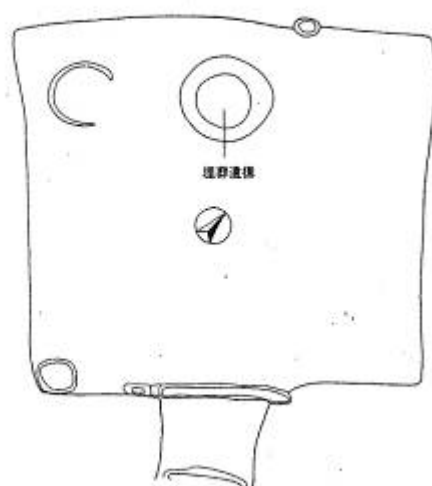




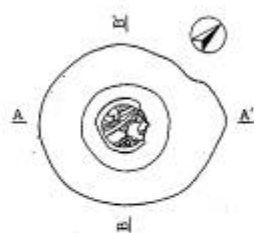
山王堂東谷やぐら群 6号やぐら

弁ヶ谷東やぐら群

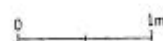
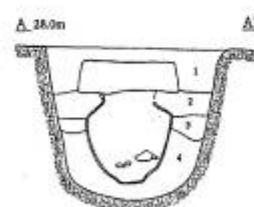
1号やぐら平面図

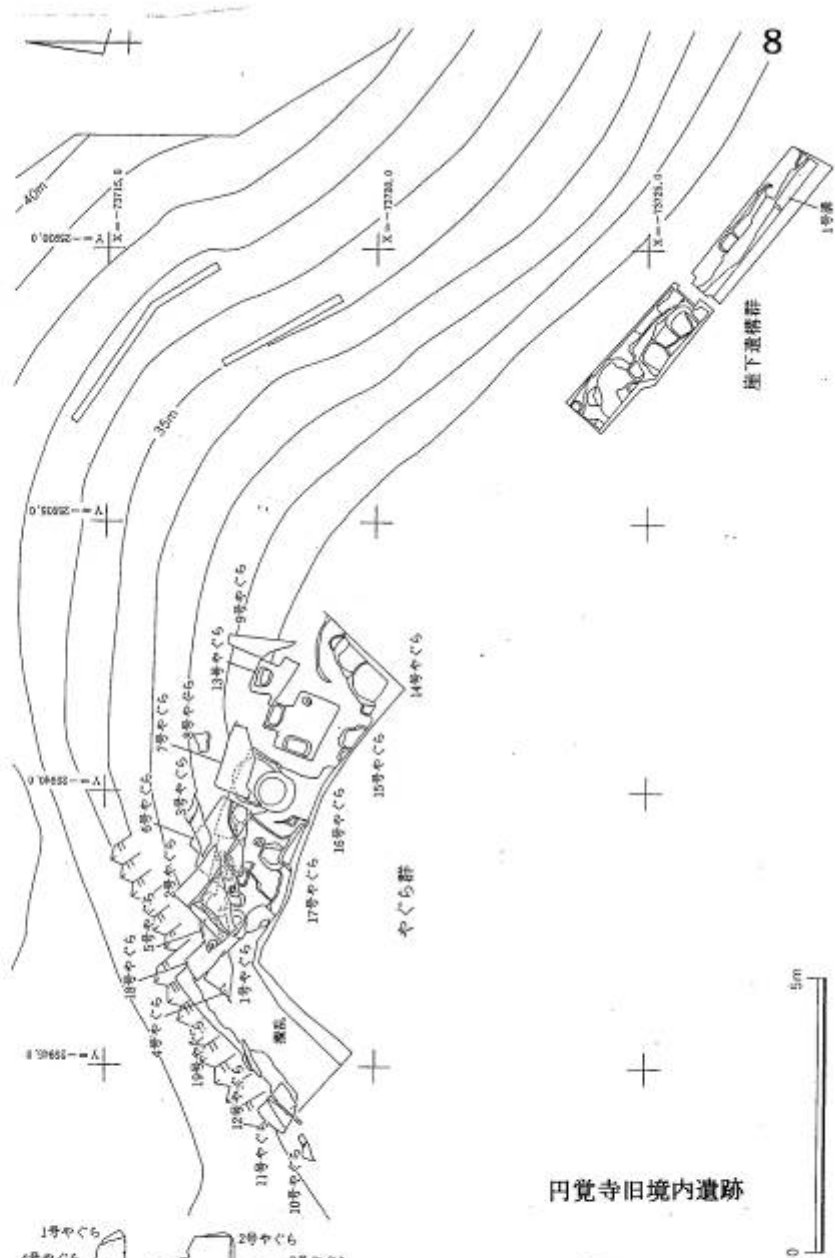


埋葬遺構出土常滑甕

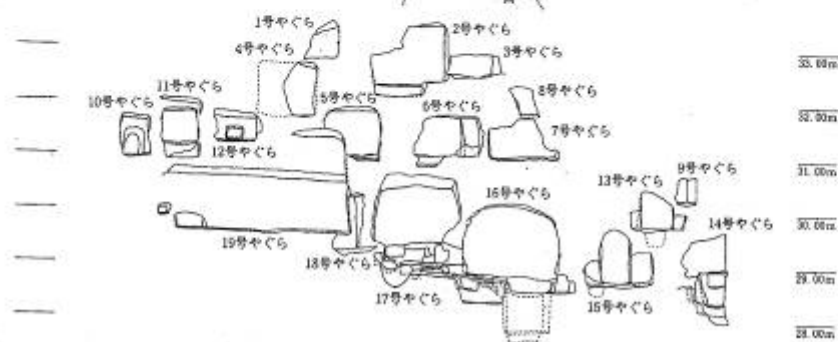


埋葬遺構



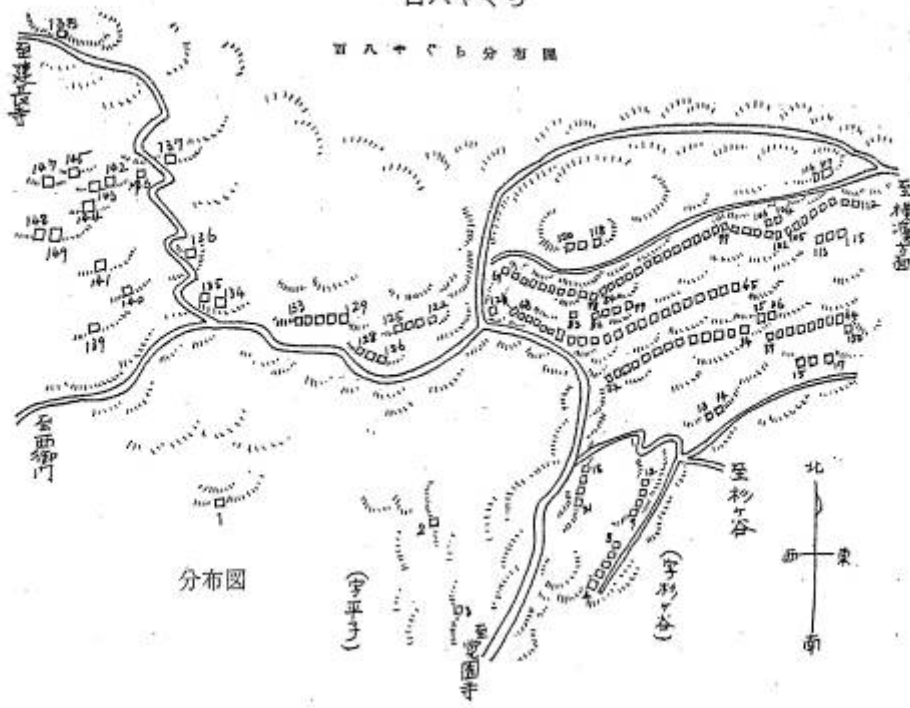


円覚寺旧境内遺跡

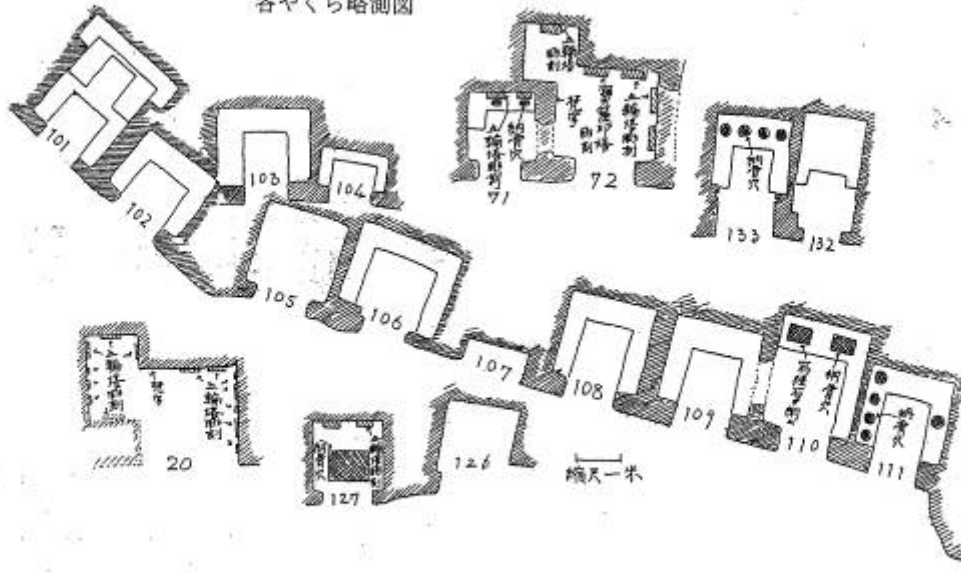


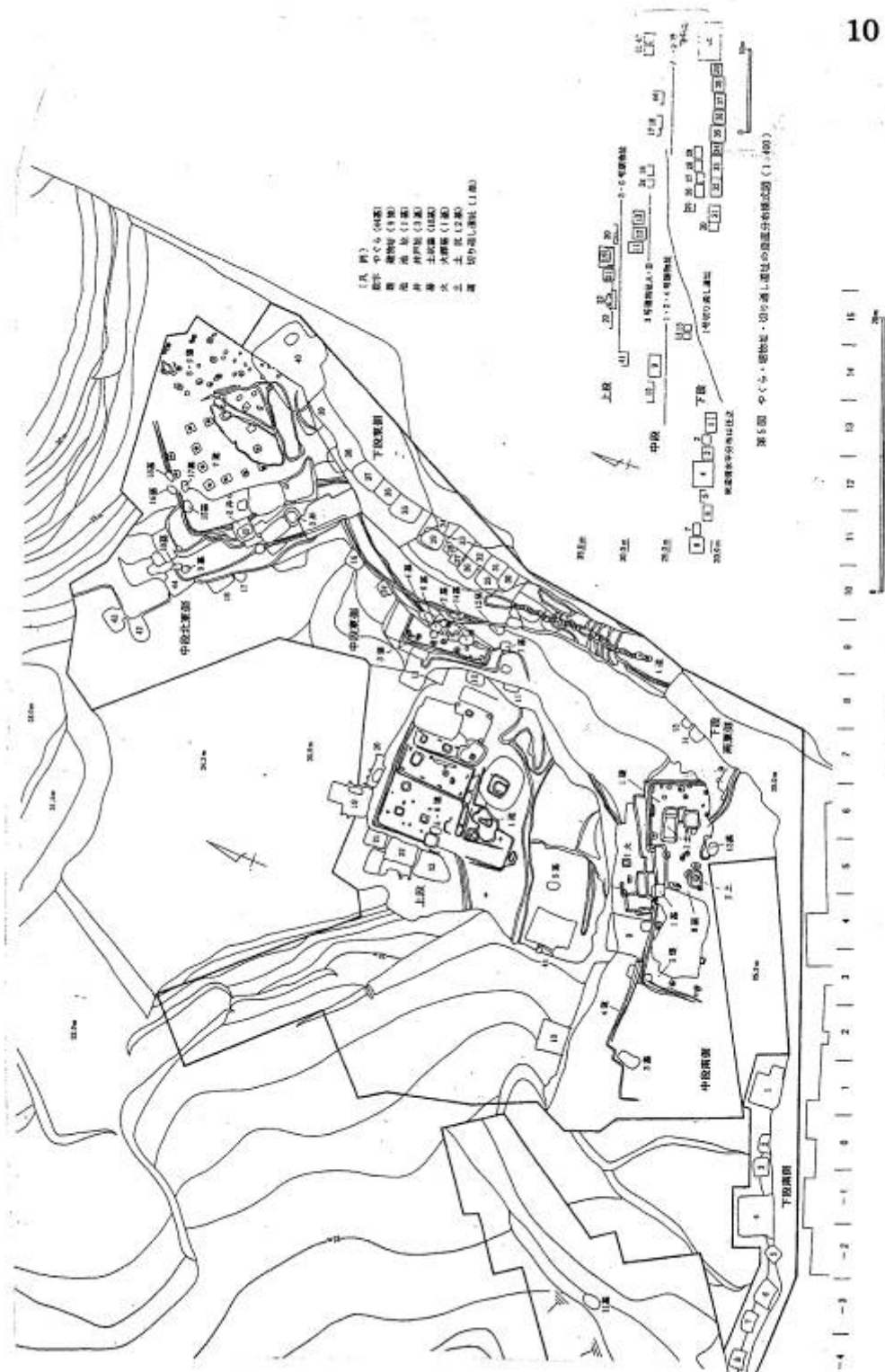
百八やぐら

百八やぐら分布図

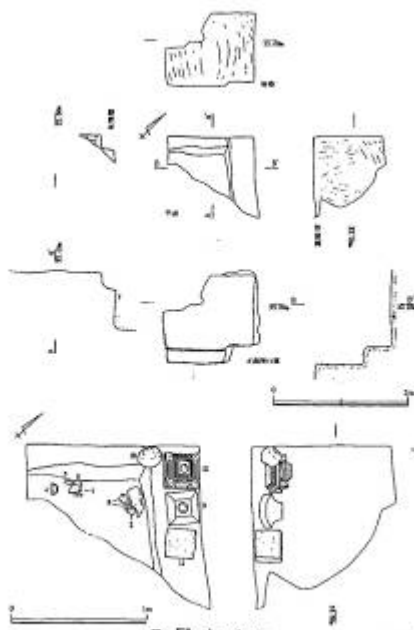


各やぐら略測図

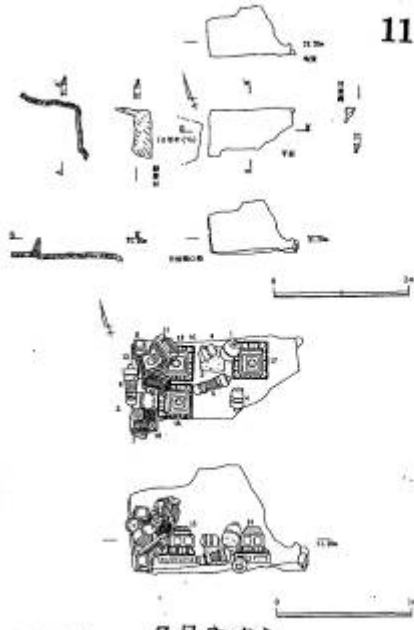




上行寺東やぐら群

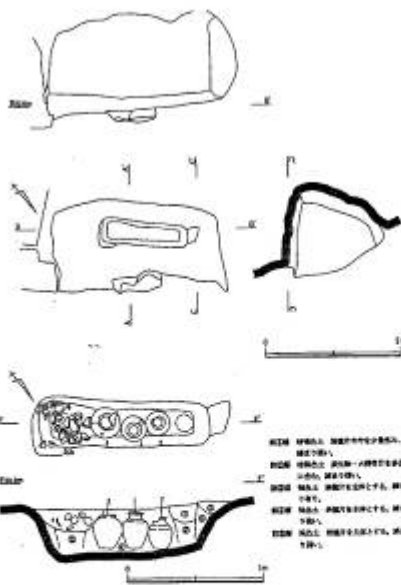


2号やぐら



7号やぐら

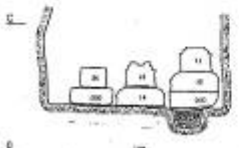
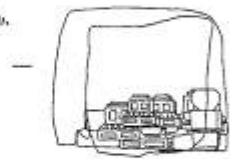
円覚寺旧境内遺跡



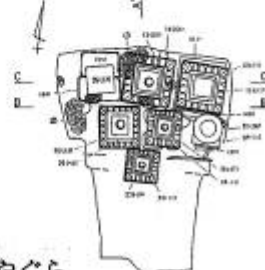
薬王寺やぐら群 1号やぐら

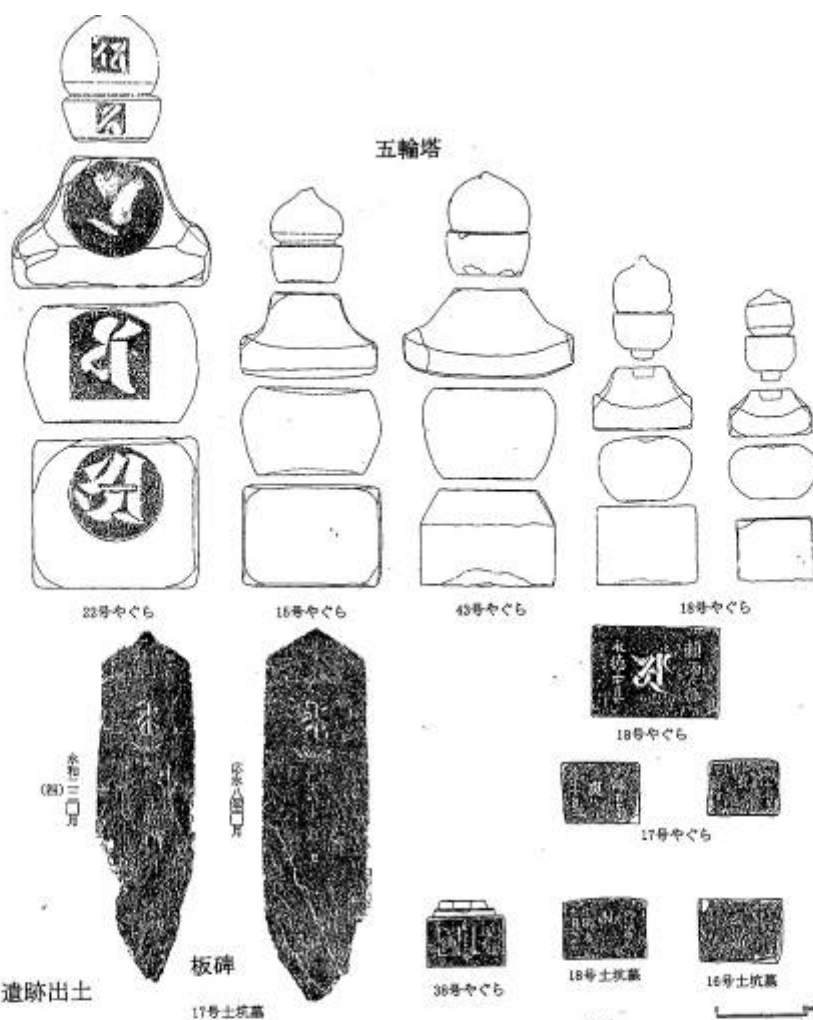


第1層 出土品類 土器の破片を多数に、砂を少量含む。
 第2層 出土品類 土器の破片を多数に、砂を少量含む。
 第3層 出土品類 土器の破片を多数に、砂を少量含む。
 第4層 出土品類 土器の破片を多数に、砂を少量含む。

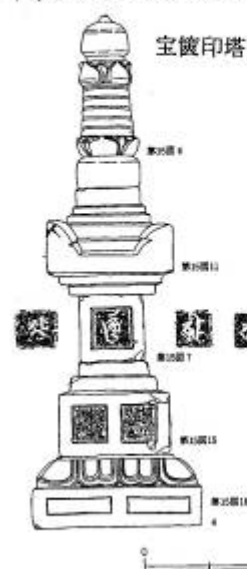


間口せちやぐら群 1号やぐら





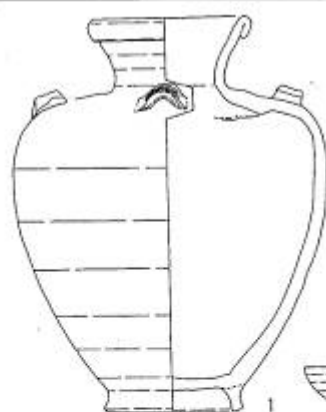
円覚寺旧境内遺跡出土



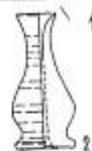
上行寺東やぐら群出土遺物

経石4
面1経石4
面2

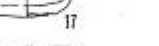
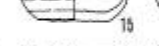
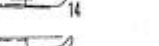
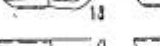
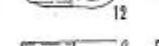
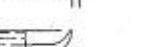
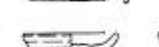
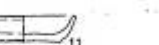
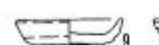
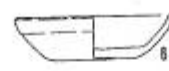
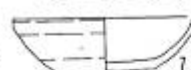
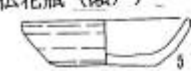
山王堂東谷やぐら群出土遺物



四耳壺 (瀬戸)



仏花瓶 (瀬戸)



かわらけ

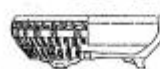
山王堂東谷やぐら群出土

13

卸皿 (瀬戸)



新善光寺跡内やぐら出土

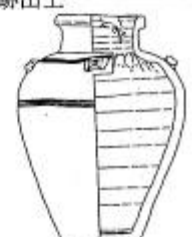


瓦質器 (火鉢、香炉など)

多宝律寺遺跡出土



瓶子 (瀬戸)

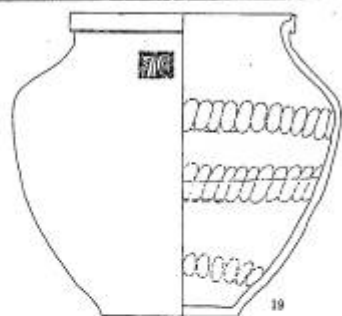


四耳壺 (瀬戸)

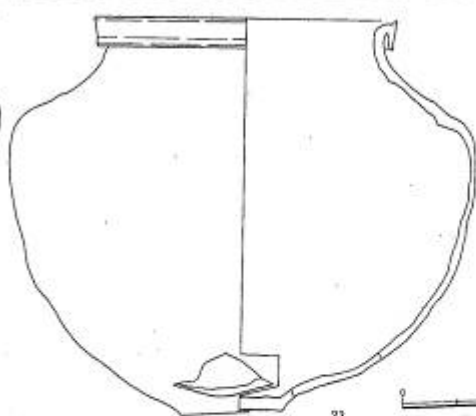


壺 (常滑)

上行寺東やぐら群出土



上行寺東やぐら群出土



瀬戸町やぐら群出土



甕 (常滑)